

米国における大麻・マリファナ使用の動向 に関する新しい知見

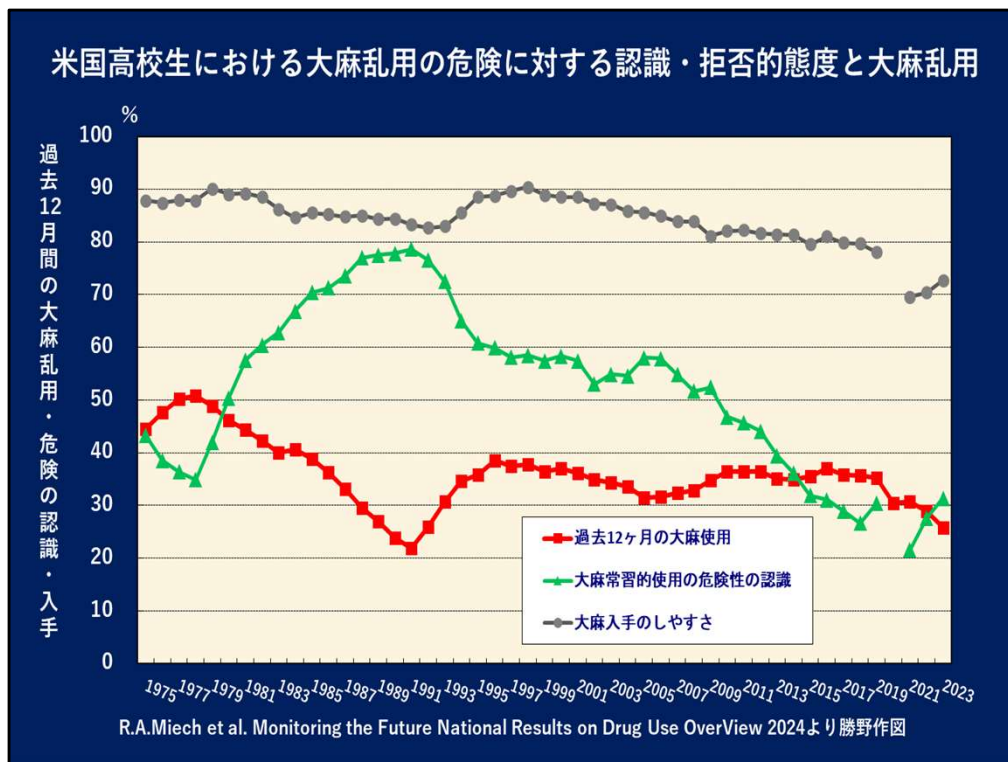
中等学校12年生における大麻使用の理由

Monitoring the Future

米国のMonitoring the Future (MTF)調査では全国の高校生を対象とした長期調査で集積されたデータから青少年の薬物使用の実態とその要因について分析を行っています。

ここでは、MTFの実施主体であるミシガン大学社会調査研究所の下記レポートから大麻使用経験のある高校生における大麻使用の理由の時代的变化についての知見を紹介します。

* M.E.Patrick et al. Trends in Coping Reasons for Marijuana Use among U.S.Adolescents from 2016-2022
Addictive Behaviors Vol.148 January 2024, 107845

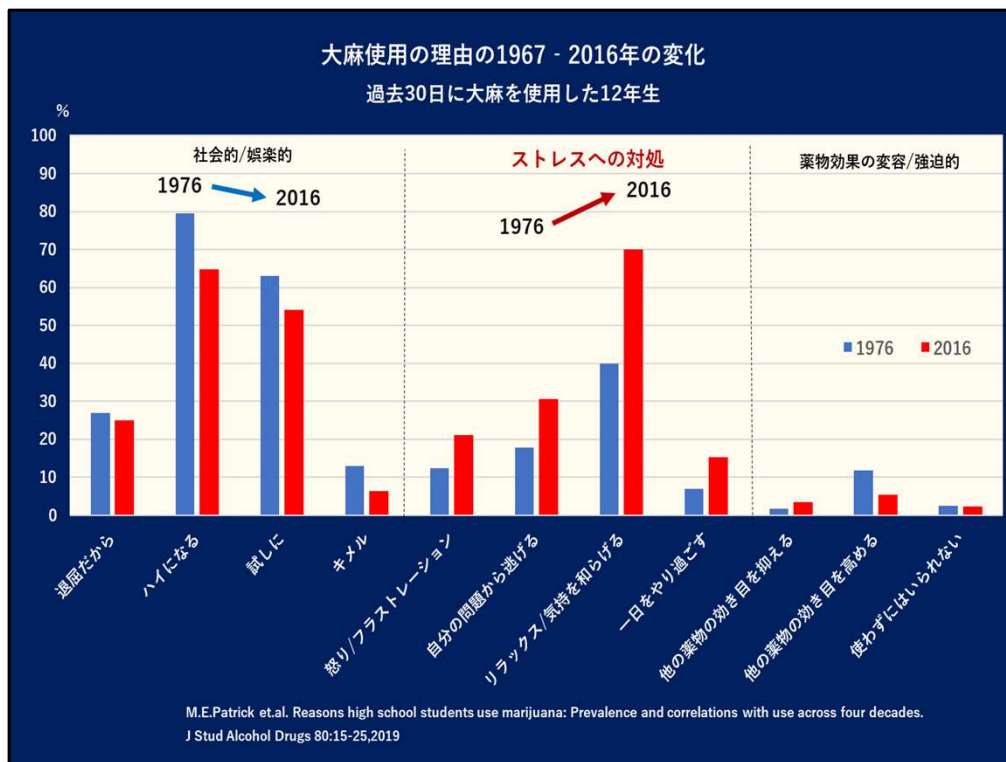


表題の研究は1976年から2016年の40年間についての分析ですが、この期間を含む1975 - 2023年までの米国12年生（日本の高校3年生に相当）の大麻使用の実態をみると：

この図は、大麻使用経験率（赤：年経験率/過去12か月での大麻使用）と大麻を常習的に使用する危険についての認識（緑）および大麻の入手の可能性（灰色）を示したものです。

大麻使用経験は1970年代の50%に達するほどの拡大したのち、1980年代後半から1990年代はじめに減少したのち再び増加し、その後は小さな変動はありますが、比較的平坦な状況が続いています。図に明らかなように、大麻使用の危険についての認識が高くなると大麻使用は減少します。近年では大麻使用はやや低下傾向がありますが、大麻使用の危険についての認識を持つ高校生は30%程度まで低下していることが懸念されています（大麻使用の危険についての認識が低くなっているのに、大麻使用率も低値に留まっている理由の一つに、大麻使用は主に喫煙で行われるので、米国でのたばこ喫煙率が極めて低くなっていることが挙げられています）。

つまり、米国の青少年では、近年、大麻使用は比較的低値で落ち着いて推移している一方、大麻を使用することの危険性についての認識が極めて低くなっているのです。



米国のMonitoring the Future (MTF)調査で1976-2016年に得られたデータから、中等学校12年生（日本の高校3年生に対応）のなかで過去30日に大麻使用をした経験のある者（月経験者）がどのような理由で大麻を使用したか、その理由がこの40年間でどのように変化したかを調べると*：

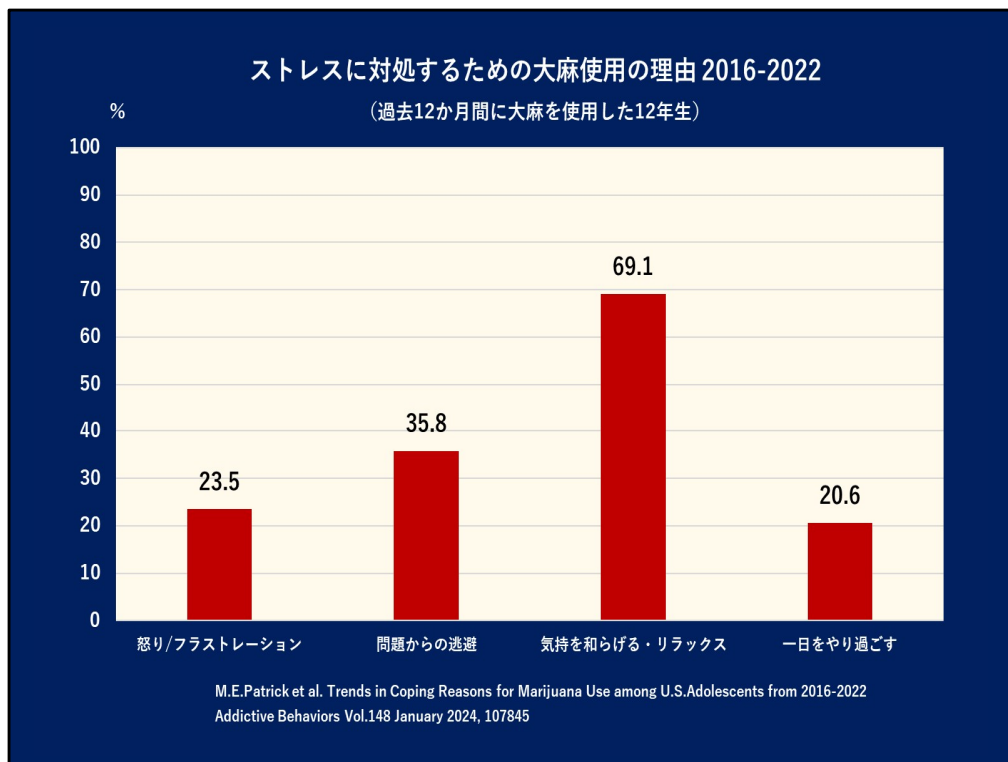
「退屈」、「興味本位の試し使用」、「ハイになること」の娯楽目的などからの大麻使用は減少した一方、「怒り・フラストレーションから」、「自分の抱える問題からの逃避のために」、「気持ちを和やらげる・リラックスするために」、「一日を乗り切るために」、など、個人が抱えるストレスなどネガティブな状況に対処することを目的とした大麻使用が倍増しました。

* Patrick, M.E., Evans-Polce, R.J., Kloska, D.D., Maggs, J.L., 2019. Reasons high school students use marijuana: Prevalence and correlations with use across four decades. J. Stud. Alcohol Drugs. 80, 15–25.
<https://doi.org/10.15288/jsad.2019.80.15>

中等学校 1 2 年生における大麻使用の理由の 変化を40年（1976-2016）にわたって調べると：

- ・ 退屈しのぎ、興味本位の試し使用や娯楽目的からの大麻使用は減少した。
- ・ 一方、個人のストレスなどネガティブな状況への対処目的（怒り・フラストレーション、問題からの逃避、気持ちを和らげる・リラックス、一日をやり過ごす）からの使用は倍増した。

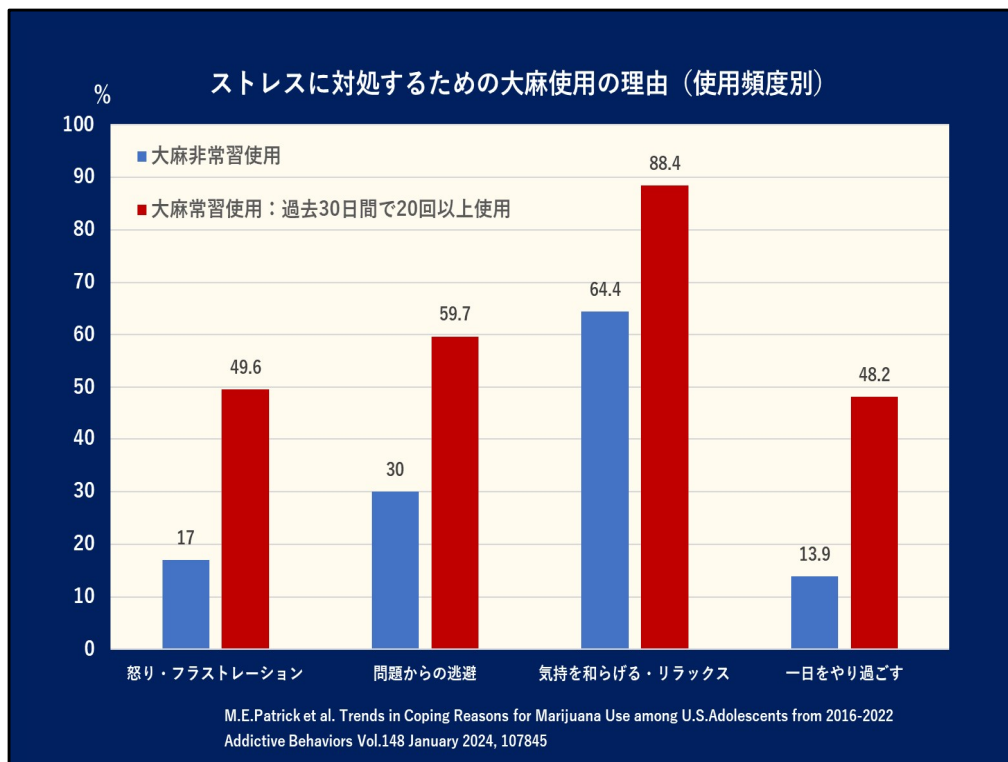
Patrick, M.E., Evans-Polce, R.J., Kloska, D.D., Maggs, J.L., 2019. Reasons high school students use marijuana: Prevalence and correlations with use across four decades. *J. Stud. Alcohol Drugs*. 80, 15–25. <https://doi.org/10.15288/jsad.2019.80.15>



この図は、前述の1976 - 2016年の40年間の調査結果を踏まえてストレス対処のための大麻使用の理由に焦点を合わせて、2016年から最近2022年の間について調べたものです。

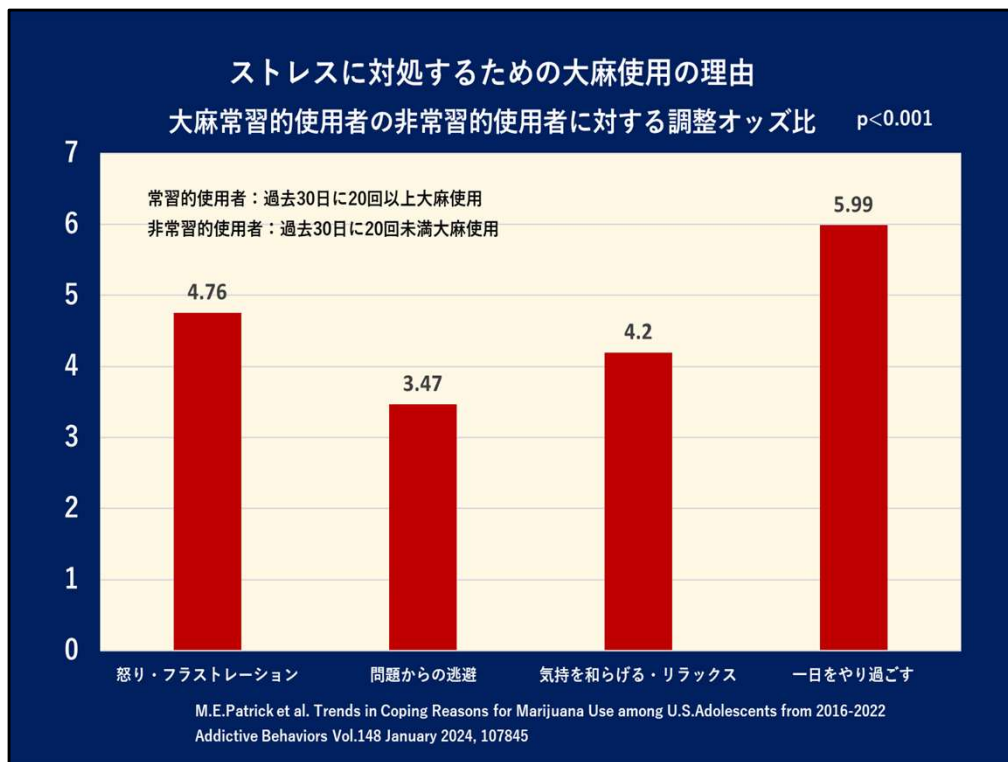
この図では、2016 - 2022年の6年の間にMTF調査を受けた12年生のなかで、過去1年間に大麻使用をした経験のある者が挙げた大麻を使用した最も重要な理由を示してあります。

大麻使用経験者の多くがストレス対処のために大麻を使用しており、その約7割（69.1%）が「気持ちを和らげる・リラックスするため」を最も重要な理由として挙げ、次いで「自分の抱える問題から逃避するため」（35.8%）、「怒り・フラストレーションから」（23.5%）、「一日を何とかやり過ごすため」（20.6%）を理由としています。



この図は、ストレスに対処するための大麻使用の理由を、大麻を常習的に使用している12年生生徒（過去30日間で20回以上使用）とそれ以下の頻度で使用した生徒（大麻非常習使用者）で比較したものです。

ストレスに対処するための大麻使用の理由として挙げた4つのすべてが、大麻常習者は、大麻使用頻度の低い者に比べて高く、特に大麻常習者では「怒り・フラストレーションから」、「自分の抱える問題からの逃避として」、「一日を何とかやり過ごすため」を理由として挙げている者が、大麻非常習者に比べて多いことがわかります。

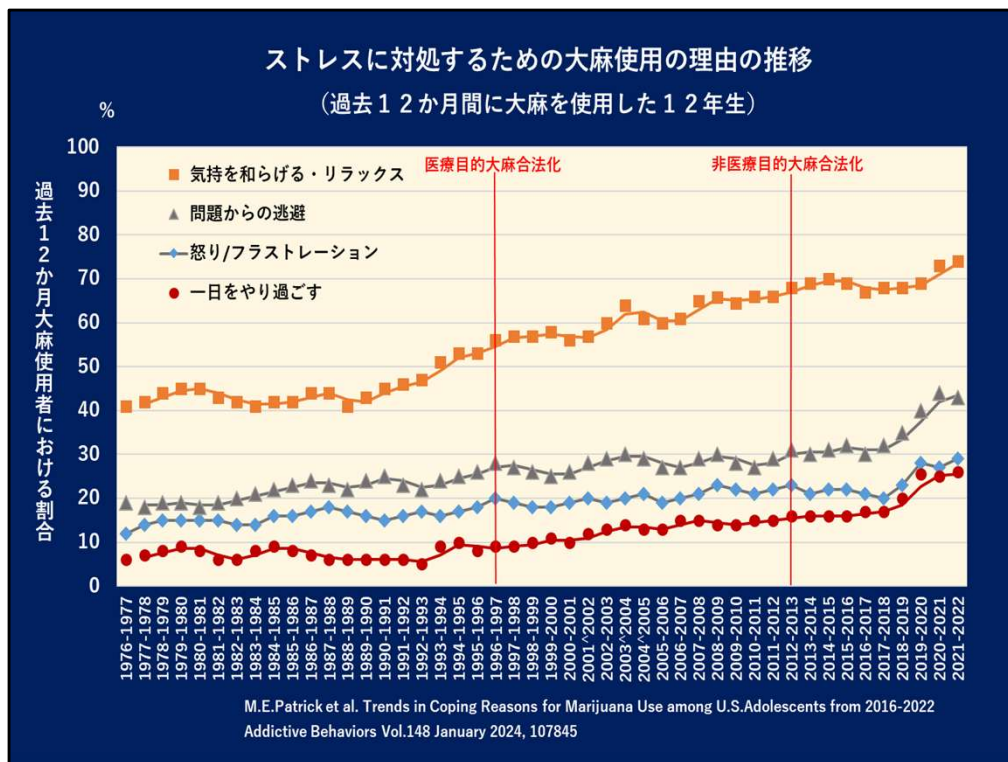


この図は、前の結果をもとに、大麻を常習的に使用している12年生生徒とそれ以下の頻度で使用している生徒の、ストレスの対処するために大麻を使用する理由を比較してオッズ比*を示したものです。

大麻を日常的に使用している高校生は、それ以下の頻度で使用している生徒に比べて、ストレスに対処するために大麻使用する傾向が高く、特に「一日をやり過ごす」の理由では約6倍、「怒り・フラストレーション」では約5倍、「気持ちを和らげる・リラックス」では約4倍、になります（いずれも危険率0.1%未満で統計的に有意）。

この結果は、青少年では、大麻使用の常習化が高くなるほど、様々なストレスを回避するための手段として大麻使用を繰り返すようになることを示しています。

*オッズ比：比較対象に対して出現する確率が何倍高いか（この場合は、大麻常習的使用者をそれ以下の使用者と比較して）を示す。



この図は、過去12か月に大麻を使用した経験のある12年生が挙げた大麻を使用した理由の1976年から2022年までの推移を示したものです。

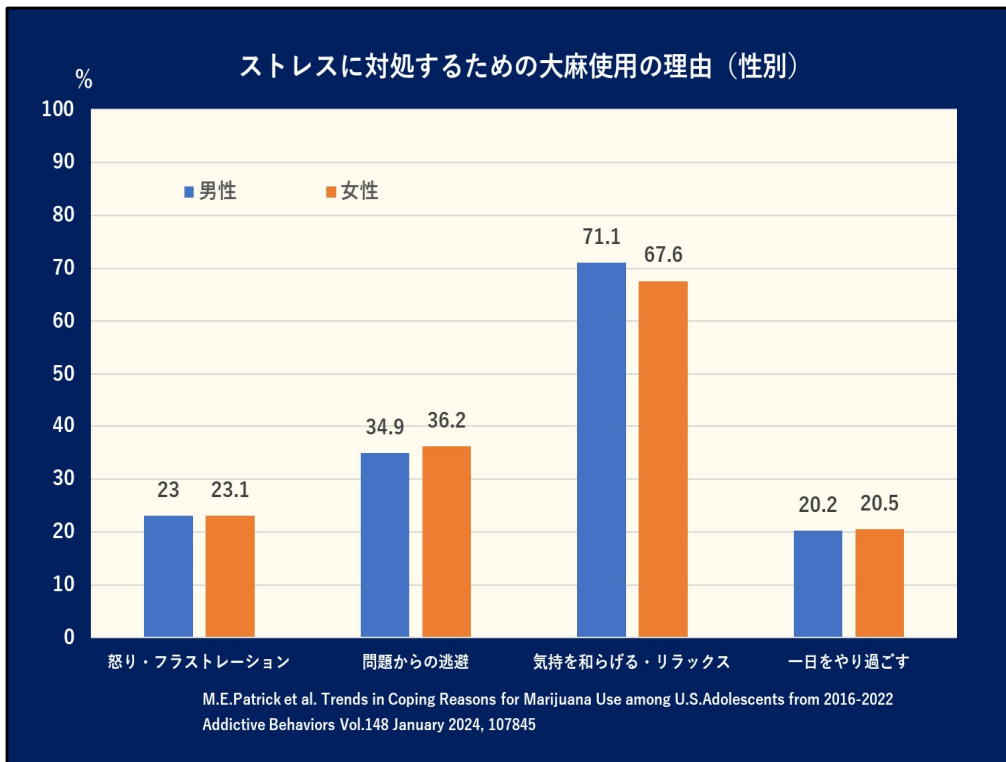
個人が抱えるストレスへ対処することを目的とした大麻使用は、わずかな変動はありますが、全体としては、「気持を和らげる・リラックス」、「問題からの逃避」、「怒り・フラストレーション」、「一日をやり過ごす」のどの理由も一環として増加傾向にあります。特に、「気持を和らげる・リラックス」という理由は1976年の40.8%から2021/2022年には73.1%に大きく増加しています。

図には、米国で医療目的の大麻使用の合法化が始まった1996年、非医療目的の大麻使用の合法化が始まった2021年を示してありますが、ストレスへの対処を目的とした大麻使用の動向には直接的な関連はないように思われます。

これらの結果は、近年、青少年では大麻・マリファナをストレスなどのネガティブな状況への対処を理由として使用する傾向が大きくなっており、大麻・マリファナ使用に対する介入の取り組みは、これを踏まえて行う必要があることを示しています。青少年期の大麻使用は、成人期に至る継続的な大麻使用に繋がり、またその結果として健康だけでなく生活全般に深刻な影響をもたらします。そのため、青少年が大麻使用に代わるストレス対処戦略を持ち、ストレスを和らげる方法を獲得するのを支援する努力は、大麻・マリファナの使用につながる可能性のあるストレス要因や課題を持つ青少年にサポートを提供するための重要なポイントであると思われます。

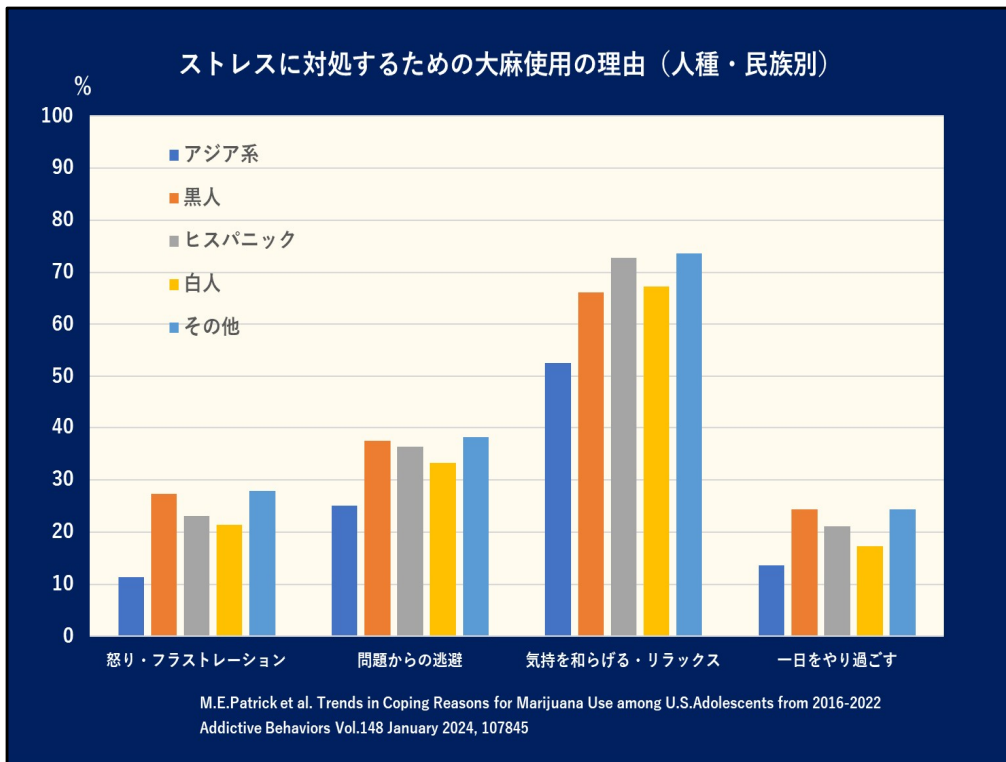
参 考

以上の結果は、対象とする生徒の、性、人種・民族、親（保護者）の学歴などストレスへの対処のための大麻使用の理由と交絡する因子の影響を調整して分析したのですが、以下では参考のために性、人種・民族、親（保護者）の学歴別の結果を示します。



性

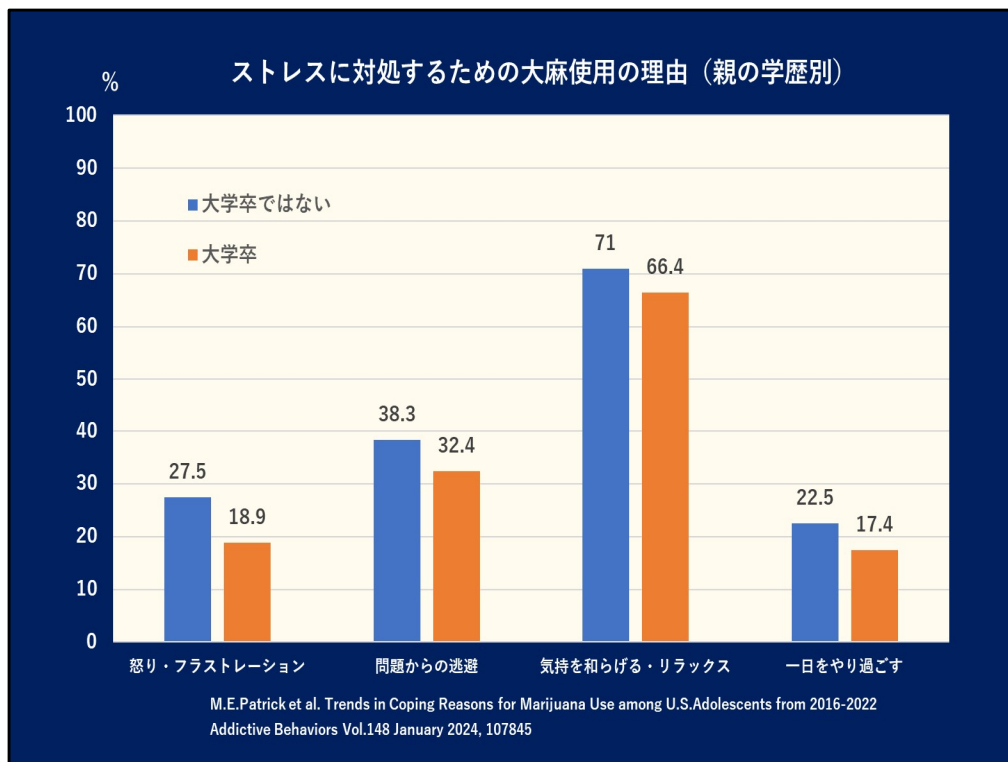
過去12か月に大麻使用をした生徒において、ストレスへの対処のための大麻使用の理由に、男女で大きな差はありませんでした。ただ、「問題からの逃避」「一日を乗り切るため」は女性で有意に高かった（それぞれ調整オッズ比1.22、1.29）。



人種・民族

過去12か月に大麻使用をした生徒において、ストレスへの対処のための大麻使用の理由は全体として人種・民族間で大きな差はありませんでした。

白人の回答者と比較して、黒人の回答者は、「1日乗り切る」ために大麻使用する割合が高い（調整オッズ比1.62）。またヒスパニック系の回答者は、「気持ちを和らげる・リラックスする」ために使用する割合が高い（調整オッズ比1.31）。他の人種回答者は、「気持ちを和らげる・リラックスする」ため（調整オッズ比1.37）と「一日を乗り切る」ため（調整オッズ比1.59）が高い。白人とアジア人の回答者の間には、有意差は観察されなかった。



親（保護者）の学歴

過去12か月に大麻使用をした生徒において、ストレスへの対処のための大麻使用の理由は、家庭の経済社会的状況のひとつの指標である親の学歴の違いでは、大学を卒業した親を持たない者で、ストレスに対処するために大麻を使用する者が多かった。

少なくとも片方の親が大学を卒業したと回答した者と比較して、そうでない回答者は、「怒りやフラストレーション」のため(調整オッズ比1.59)および「問題から逃れる」ため(調整オッズ比1.24)を大麻を使用する割合が高かった。